

川辺高校同窓会報

我が学舎と神戈陵



同窓会長 前野 政 美

同窓会会員の皆様には
ご健勝のこととお喜び申
し上げます。また、日頃
より同窓会運営には深い
ご理解と、ご協力を賜り
まして誠にありがとうございます。
ざいます。今後とも、会
員の皆様のさらなるご指
導とご協力をよろしくお
願い申し上げます。

私は会長を拝命以来三
年になりました。その
間、関西同窓会・東海同
窓会・福岡同窓会・宮崎
同窓会・陵寿会・東京同

窓会・熊本同窓会・鹿児
島同窓会・川辺町役場神
戈陵会そして川辺同窓会
と何度となく総会に出席
いたしました。会員の皆
様の母校を思う情熱にい
つも圧倒されています。

青春時代を南薩の地で過
ごされた思い出がきつと
強いせいだろうと推察い
たしております。

私たち同窓会の願いは
母校の限らない発展と、
同窓生の強い連携、さら
なる母校の活性化です。
かつて県下で文化・学業
の中心であった旧制四中
を蘇らそうと学校も同窓
会も一生懸命努力中で
す。具体的には生徒の進
路志望を達成させよう

と、校長先生を始め各先
生方に頑張ってもらって
います。そのお陰で県下
の高校で生徒の成績の伸
び率は一番です。しかし
ながら、中学卒業生の上
位層が他校へ流れがちな
現状です。

少子高齢化の時代にな
り、鹿児島では公立高校
の再編整備計画が動き出
し、川辺学区では今年よ
り笠沙高校が募集停止に
なりました。いずれ統廃
合もさらに進んでいく事
が予想されています。ま
た、学区外から入学でき
る人数が拡大されまし
た。地方の優秀な生徒が
都市部の進学校に奪わ
れ、何もしない魅力のな
い学校は自然淘汰される
時代になってきていま

発行
川辺高校同窓会本部
発行所
〒897-0221
鹿児島県川辺郡川辺町田部田
TEL 0993-56-1151
FAX 0993-56-1152
県立川辺高等学校

す。即ち、川辺高校の存
亡にかかわる大きな変化
と考えられます。

今後は特に川辺高校の
生徒募集について、積極
的でかつ大胆な施策が必
要であると考え、十五年

度の川辺同窓会に於い
て、「川辺高校活性化推
進支援事業」が可決され
ました。その一つは同窓
会奨学資金を設けること
で、各学年、難関大学へ
の進学を目指す高い志を
もつ成績優秀な若干名

に、毎月一万円を一年間
給付するものです。(十
六年度の一年生より開始)

もう一つは財団法人神
戈陵教育振興会への補助
です。昨年九月以降の各
地区同窓会や各地区の機
関誌で、三〇〇万円を目
標として財団法人神戈陵
教育振興会への寄付金を
お願いしましたところ、
東京を始め各地区より六
月末現在で二五〇万円余
りの浄財が寄せられまし
た。今年度は、難関大学

を目指し合格できる高い
学力を持つ生徒、学力の
著しい伸長のみられる生
徒、学術及びスポーツ振
興に貢献した生徒に奨学
金を給付する予定です。

市町村合併問題もあり
ます。残しておきたいも
の、それが明治以来川辺
最高学府の我が母校であ
ります。若者たちを活性
化させるために新規事業
を始めるのは困難なこと
です。今ある物を活性化さ
せることによって、より発
展させることが大事です。

母校活性化のために、
学校現場はもとよりPT
Aそして地元の皆さんに
もつと関心を持ってもらい、
同窓生の皆様の期待に添
えるように頑張っていき
たいと思っております。

南薩の地が皆様にとつ
ていつまでも心の故郷で
あって欲しいと願ってお
ります。そして、是非母
校へ関心を持っていただ
き、足をお運びください。
お待ちしております。

神戈陵魂を受け継いで



校長 西 元 辰 宏

【はじめに】

川辺高校同窓会の皆様におかれましては、ますます御健勝にて御活躍のことと拝察申し上げます。川辺高校教育振興に對しまして、物心両面より変わらぬ心強い御支援を賜りまして、衷心より感謝申し上げます。

また、本部同窓会及び各支部総会、陵寿会さらに各職場神戈陵会、三周年記念同窓会等にお招きいただきましたことに対し厚く御礼を申し上げます。皆様が母校で過ごされた日々を現在の御活躍の礎として大切にされておられることと、今な

お、郷土や母校、後輩たちの頑張りに思いを馳せられ、力になりたいとの熱いお気持ちに深い感銘を覚えております。

皆様の御活躍や熱い思いを力にして、「今、輝いている川辺高校」を目指し、在校生とともに頑張つてまいりたいと思います。

以下、学校の状況等について御報告致します。

【学校の現況】

昨年度は、学区内の中学校卒業者が九十名近く減少する中で、七月の調査では川辺高校希望者は、二百十四人（定員二百人）でした。受験者は百九十三名で、全員が入学試験をクリアし、希望に燃えて入学できました。本年度の在籍者数は前年度比十五名増の五百八十五人（定員六百人）

になっております。

経営目標に、昨年に引き続き、「進路目標の達成を通して望ましい自己実現を果たす学校」を掲げて、生徒とともに保護者にも檄を飛ばしております。同時に、全人教育の伝統を踏まえ、文武両道の実現をも推奨いたします。

(1) 進路状況

十五年度の大学等の合格状況は、鹿児島大学、東京学芸大学、名古屋工業大学など国立大学合格三十五、職業能力開発総合大学校一、鹿児島国際大学、福岡大学、近畿大学など私立大学合格百二十、その他短期大学三十四（国立十六）、専門学校六十、就職試験等合格六（内公務員一）でした。前年度からすると国立大学に關して厳しい結果だったと分析しています。本年度は、雪辱を期し、難関大学へ、夢

実現へ、生徒教員一丸となつてチャレンジする毎日です。

(2) 部活動

約八割の生徒が部活動に参加しています。

十六年度の春は、地区大会で、男子バスケット部、柔道部、男子バレー部、男子バドミントン部が優勝しました。南九州大会に陸上部女子砲丸投げ、九州大会になぎなた部、馬術部が出場しました。全国大会にはなぎなた部が出場権を獲得しています。また、秋の国体では強化指定を受けているなぎなた部、馬術部の活躍を期待しています。馬術は昨年国体七位の成績でしたので特に楽しみにしています。

文化部の県予選はこれからですが、放送部、音楽部、書道部の九州大会・全国大会への出場・活躍を期待しています。

(3) 学校行事

第四回神戈陵塾を、十一月五日に開催し、東京同窓会から下之蘭ルリ子横浜市立大学付属病院総務部医務局課長補佐（昭和五十一年卒）、東海同窓会から小峰直美（ヒューマンリンク社員（平成七年卒）、地元川辺・鹿児島同窓会から宮原俊郎劇団「いぶき」代表（昭和五十四年卒業）、鰺坂孝二鰺坂耳鼻咽喉科院長（昭和四十八年卒）はじめ八名、全体で十名の同窓生を講師にお願い致しました。

四月二十六日の創立記念日には、（株）テラ・コーポレーション取締役会長、（株）NDB取締役会長、（株）テクノウイング取締役会長、（株）グローバル・ウェブ・ジャパン監査役など多くの役職を兼任され、まさに世界を舞台に実業界の第一線で御活躍中の、延時安典氏（昭和三十六年第十三回卒）を

お迎えし、「あなたはッど
こで、なにをして“働
きたいですか?”の演題で
講演をしていただきまし
た。

本年度の文化祭は七月
十六日に開催いたしました。
体育祭は九月十一日
(土)、第五回神戈陵塾は、
十一月五日(金)に計画して
おりますので、同窓会の
皆様方の多くの御参加を
お待ちしております。

【同窓会等事業への御礼】

同窓会の皆様には、昨
年度も、創立記念講演
会、文化講演会、並びに
神戈陵塾への講師の派
遣、あるいは、貴重な書
籍の御寄贈、また、東京
同窓会から卒業生各人に
記念品の贈呈、川辺町役
場神戈陵会より多額な御
寄付、あるいは学校訪問
など物心両面から、多大
な御支援をいただき衷心
から御礼申し上げます。
特に、神戈陵教育振興
会では、従来の育英奨学

制度の他に、学力伸長の著
しい生徒の顕彰や学術ス
ポーツ振興のための助成を
復活されるなど、十六年度
の事業計画を拡大して策定
して頂いております。

また、川辺同窓会で
は、川辺高校の英才育成
と人材確保に寄与する目
的で、月額一万円の同窓
会育英奨学制度を発足し

て頂きました。

私どもは、皆様方の川
辺高校振興に寄せられる
熱き思いをしつかりと受
けとめ、生徒や保護者に
制度の趣旨を十分に伝え
るとともに大いに活用さ
せていただき、これから
の更なる学校活性化に生
かしてまいりたいと考え
ております。

東京同窓会

鯨坂 悟郎

(昭和32年卒)

第二十八回川辺高等学
校東京同窓会の総会並び
に懇親会は、平成十六年
六月五日(土)、爽やかな快
晴に恵まれ、九段会館に
於いて開催されました。
来賓として本部同窓会の
前野政美会長、母校の西
元辰宏校長、山口久信教
諭、恩師の大山邦博先
生、黒川久子先生、さら
に薩南工業高等学校同窓
会、関東さつま川辺会か

らのご出席もあり、総勢
二百十二名という例年以
上の参加の中、盛大にと
り行われました。
当日は、東京同窓会恒
例の特別講演会、総会、
懇親会の三部構成の全て
を幹事担当年次の昭和三
十六年卒、四十六年卒、
五十六年卒の方々が中心
となって運営されました。
特別講演は、二十五
年卒の前橋竹之氏により

【おわりに】

川辺高校の座右の銘
「弘毅正大の心、競進優
越を期す。不断刺激を新
たにし、忠実奮って自学
せん。」の神戈陵魂を精
神的拠り所とし、学校の
更なる活性化を図り、生
徒の学力向上及び人格の
陶冶に努めてまいります。
今後とも母校川辺高校

と後輩たちの活躍に大い
なる御声援を賜りますよ
うお願い申し上げますと
ともに、川辺高校同窓会
のますますの御発展を御
祈念申し上げます。



の率直な感想でありまし
た。

「著書『三角兵舎の月』
とその時代」を演題とし
て行われましたが、あの
終戦直前の知覧、川辺を
舞台とした我々の先輩方
の生々しいご体験や当時
の世相が昨日のことの様
に語られ、百名以上の出
席者に深い感銘を与えま
した。あの時代の先輩方
のご苦労があつて今日の
平和があるのだというこ
とが改めて想起されまし
たが、残念なことに限ら
れた時間での講演であ
り、もっともっと聞きた
いというのが出席者全員

総会では、物故者の黙
祷に始まり、会務報告等
が行われ終了後懇親会と
なり、つけあげ、とりさ
し、焼酎などに舌鼓しな
がら懇談に入りました。
懇親会のイベントは二部
に分かれ、一部は「沖縄
のエイサーと島唄」で、
同窓生も一員のバンドを
お招きし、異国情緒たっ
ぷりの演奏や島唄に会場
は大いに盛り上がりまし
た。二部は有志による
「鹿児島おはら節・はん



や節」の踊りが賑やかに繰り広げられ、飛び入りもあり、こちらも大いに盛り上がりました。

今年の総会の特徴は、担当年次の方々の努力もあり、若年同窓生の参加も含め出席者数が例年よりも二十〜三十名多かったこと、会場の九段会館も運営に最大限の気配りをして頂いたこともあり、内容の濃い、充実した総会となりました。

例年以上に楽しく語り合えた一日で、最後に旧・新の校歌を全員で合唱し、来年の再会を期して解散しました。

尚、東京同窓会の活動の中で、昨年十一月、会報誌「神戈陵二十七号」を会員、本部及び各支部に発送し、又、神戈陵教育振興会への募金協力を会員に呼びかける等行いましたことを付記します。

第二十六回陵寿会

世話人
大倉野貞俊

今年の陵寿会は三月十三日に東京目黒の三州倶楽部で開催されました。

例年通り郷里から来賓として、本部同窓会長前野政美氏、母校の安楽義孝教頭と長野守雄教諭をお迎えしました。参加者は会員六十二名と踊り手として特別参加の「関東さつま南の会」連中、東京同窓会支援参加の皆さんを含めて総員七十五名となり昨年を大きく上回りました。

当日は快晴に恵まれ、定刻正午から中釜作治会長の挨拶で始まりました。次いで来賓の安楽教頭から母校の現況（進学状況と統廃合問題）について詳しい報告があり、前野会長からは緊急課題の広域行政改革の進捗状況について説明があり、参列者の故郷への関心を

高めました。

当時の情勢を顧みるに、イラクではますます緊迫の度を増し、ついに自衛隊派遣も現実となりました。日本が世界に対して普通の国としての存在を示すことになりましたが、果たして国民にその自覚があったのでしょうか。また、日本の国家財政は破綻の断崖にありますが、年金改革に見るが如く、政・官・業癒着の構造改革は一向に進展せず国民の信頼を失いつつあり、選挙に行かない若者がますます増えようとしています。

陵寿会会員の多くの皆さんは、第二次大戦の戦中・戦後を生き抜き、日本の艱難辛苦とその成果としての繁栄を身を以って体験しました。その事実を知らず、また知ろう

ともしない世代が大半を占めるようになった今、私たちは声を大にして語るべきだと思います。今年の陵寿会ではこのテーマが大きく取り上げられました。特に、大先輩の文化功労者で東大名誉教授であられる齢九十二歳の川野重任先生が、教育改革こそが最大の急務であると悲憤慷慨して叫ばれました。百余年の伝統と名声を誇る母校は、いま少子化の嵐の中で木の葉のように揉まれようとしています。今こそ、われわれ同窓が語り合い真剣に対策を講ずべき時だと思います。一人ではどうにもなりません。全国に散らばる同窓の同志が束になって母校の要請に応えましょう。

会場には郷里からご参りいただいた焼酎やツケアゲがどっさり並び、皆さん懐かしさいっぱい笑顔で飲みかつ頬張って歓談しました。勝目に住

む片平晃一さんも、大阪まで来ていたからとわざわざ足を伸ばして駆け付けて下さいました。ありがとうございます。

来年の陵寿会は、正午からの本会とは別に、十時半から自由参加の「語

ろう会」を開く予定です。ここではテーマごとに分科会を持ち、大いに「議を言う」ことにします。

会員諸氏多数のご参加を希望いたします。

(二〇〇四・六・三)



東海同窓会便り

東海同窓会幹事
吉利 用邦
(昭和41年卒)

第十六回東海同窓会が、

来賓として、本部から

平成十五年十月五日賀城

西元辰宏校長、高田政雄

園にて開催されました。

同窓会本部副会長、山口



久信先生をお迎えしました。また、大阪同窓会役員宇都勉さんの特別参加もありました。

いろんな事情で参加人数二十一名の会でしたが、会自体は大変盛り上がりしました。宇都勉さんの阿波踊りなどの演技披露、丸野洋子さんのハーモニカ演奏がありました。その熟達した演技に、会場から拍手が鳴り止みませんでした。また、川辺高校を紹介するビデオを見て、昔のことが懐かしく思い出されました。

約二時間余りの総会でしたが、時間の経つのも忘れるほどでした。最後は学生に戻って、大声で校歌を斉唱し、来年の再会を誓って散会となりました。

今後は東京や大阪の同窓会との連絡を更に密にして、いろんな方と旧知を暖め、多くの方の参加を期待しています。

関西同窓会

茶園 義文
(昭和44年卒)

二〇〇三年度川辺高校関西同窓会は、九月二十八日(日)地下鉄御堂筋線の中津駅近くの東洋ホテルにて、四十五名の参加を得て盛大に開催されました。ご来賓として本部同窓会より森田剛副会長、母校から西元辰宏校長先生、長野守雄先生(昭和四十二年卒)、恩師の大園節先生(昭和三十四年から四十六年まで在籍)をお迎えして開催されました。

池田寛会長の挨拶、岩屋口大造幹事長の活動報告に続いて立藺文治さんと田中徹朗さんによる会計報告、監査報告がありました。昭和二十年卒の井上正敏さんの乾杯の発声で宴会の運びとなりました。

ご来賓の挨拶では、西元校長先生から昨年度の

母校の進路状況、部活動など後輩達の文武両道の活躍に関するご報告に参加者全員が熱心に聞き入っていました。森田副会長より現在の川辺高校の学生達は入学時、学力的には他校に遅れをとっているが、卒業時までの学力の伸びは目を見張るものがあり、三年間のうちに人間的にも成長し人間形成の面では県下どこ

の高校にも引けをとらないくらいの力をつけること、先生方も人間形成の面から特に力をいれている点が紹介されました。スピーチの途中で西元校長先生の携帯電話に県の高校野球秋の大会で一回戦五回コールド勝ち(16対1)の速報も飛び込み、会場から大きな拍手が送られました。

長野先生は創立百周年

記念館、「神戈陵尚学舎」の資料室の正面に掲げてある扁額「座右の銘」に記されている「弘毅正大の心、競進優越を期す。不断刺激を新たにし忠実奮って自学せん」をパウチでシオリにしたもの(神戈陵の樹木の葉を水酸化ナトリウムで脱色して織り込んでいる)を紹介し全員に配布してくださいました。参加者の皆様に時々、この神戈陵魂を思い出してくださいと貴重なプレゼントになりました。

大園先生は十三年間の川辺高校での教師生活を振り返って、思い出話を紹介してくださいました。当時は教育に忙しく、家路につくのはいつも十一時頃、朝は六時頃の出勤で子供の寝顔を見るだけの生活であったとの紹介もあり、改めて卒業生達の現在があるのは、先生方の教育に対する情

熱の賜物であることを改めて痛感した次第でした。

昭和二十九年卒の中迎隼人さんより、平成十四年度の神戈陵塾での在校生に対する九十分授業の様子も紹介されました。講義の内容として中迎さんの自分史を伝え、「時は命なり、常に夢を持ち続け実現に向けて努力すること」を強調され、生徒達の思いが寄せ書きでプレゼントされたことが、今でも何よりの宝物であるとの話がありました。

余興の部では宇都勉さんに自慢の喉を披露して頂き、懇親会も最高の盛り上がりの中、記念撮影の後、校歌斉唱に移りました。旧制中学の校歌、新制高校の校歌が声高らかに歌い上げられ、梅橋弘芳副会長の万歳三唱の音頭で総会の幕を閉じました。

今回の同窓会では昭和三十九年度の同窓生が十名も参加されたことが特



徹的でした。来年以降若い世代、特に昭和四十五年卒の方々が参加いただけるよう、同窓会本部のお力もお借りしながら

さらに若返りをはかり、発展させていきたいと考えております。最後に母校のますますの発展を祈念致します。

福岡同窓会だより

今村 啓一
(昭和49年卒)

『なんとということだ。

かわいなおちょぼ口を彷彿とさせるビール瓶から注がれた黄金色の液体

は、透明な器の中になみなみと満たされて、そして、同心円のさざなみをたてながら、乾杯の瞬間を待っている。いよいよ

長岡先生の発声で乾杯だ。軽やかに鳴り響いた乾杯の声で、口の中の唾液の栓は一気に緩み、剃り残しのひげを横目で見ながら、その黄金の濁流はあつという間に一穴ゆるめたベルトの奥に消えていった。透明の器には出遅れた泡が気まずそうに残りそして消えていった。おっと、ものすごい笑顔だ。銀歯・金歯をのぞかせながらみんなの顔が笑顔に変わっていく。そして拍手だ。自らの骨を砕かんばかりの拍手が

参加者の心の扉を押し開いていく。いよいよ、福岡同窓会という名の乱宴のスタートだ。』

もし、古館伊知郎がレポーターであればこんな感じで話し出しただろう。新人レポーターの今村(四十九年卒)です。

今年も、十月の第三土曜日である十八日の二時より恒例の第十五回鹿児島県立川辺高等学校福岡同窓会が西日本新聞会館十六階、志賀の間でおよそ四十名の参加のもと開催されました。このころの福岡は郊外に行くと、ススキとセイタカアワダチソウがさわやかな風にゆれる気持ちのいい季節です。当日も秋晴れのすばらしい天気でした。

上野副会長の開会のことば、名司会者、本田さんの少ししわがれた流暢

なかごんま弁での司会進行に続いて、南谷会長の会長あいさつと続く。年に一度は白川から小野、霜出を廻り懐かしむとの話。その後、来賓紹介として、本部同窓会副会長の高田さんのあいさつ。

高田さんは、神戈陵教育振興会の運用資金が枯渇の状況にある説明をし、募金運動への協力を訴えられました。その後、来賓として本校の西元校長があいさつをされ、今年の四月からの赴任で、素直な校風に驚きと感動をおぼえたとのお話が続きました。宴が進むにつれ、懐かしい話や笑い声がここかしこで飛び交い、『高千穂笠沙神代より』の旧校歌、『ああ悠遠の陽に映えて』の新校歌のころには盛り上がりも最高潮に達しました。万歳三唱は若手のホープ、丸野一誠さん(五十五年卒)が若さと長身の体全身でリードし、宴を



締めくくっていただきま
した。
二次会はいつものもつ
鍋を囲み、その後、ある

集団は中洲のワインを求
めてネオンの中に消えて
いきました。おりしも、
日本シリーズ初戦で中洲

には深夜まで『いざいけ
若鷹軍団』の歌が聞こえ
ていました。

第十五回鹿児島県立川辺高等学校福岡同窓会

平成十五年十月十八日(土)

本田さんの下知をすつ叫ぶ声が聞ゆつよな気が…
「カメラマンも早よ並んで、旅館の衆に撮つ貰て」

S 45 松村	S 43 上木原	S 49 南谷(洋)	S 41 村山
S 35 辰野	S 42 宇都	S 45 池水	S 41 小原
S 49 今村(哲)	S 43 藤崎	S 48 今村(三)	S 42 長野先生
S 43 上野	S 36 中原	S 43 福永	S 48 高田本部 副会長
S 48 蔵元	S 37 川野	S 36 萩原	S 36 南谷(知)
S 48 江平	S 36 山内	S 34 永見	S 30 岩屋口
S 55 丸野	S 38 平江	S 40 滝山	S 31 本田
	S 49 柳	S 49 前田	S 31 内匠
		S 42 堀内	
		S 49 今村(久)	
			西元校長先生

アケビ
『アッキョ』(熟すと実が縦に割れる)と『ウンベ』
(熟しても実が割れない)

子供の頃、この季節山になっていた紫の果実を
食ったもんじゃした。十一月八日(土)朝、NHKテ
レビでウンベを桜島の特産物にしようと七年前
から栽培していると紹介していました。市内の青
果店では一個五十円で売っており観光客に人気
があるとか…

宮崎同窓会

下野 武夫
(昭和37年卒)

今年の総会は三年に一
回廻りで都城の「グリー
ンホテル」で開かれた。
特に早い人の一時間前
は別にしても、ほとんど
の人が定刻よりかなり前
に集まった。黒木幹事長
さんが開会の挨拶でその
ことに触れ、「こんなに
集まりのよい会合は珍し
い。逆に言うとなかなか
年寄りが増えたというこ
と」と話された。
そう言えば宮崎県支部
の会員は百名を越えるの
に、若い人の入会がない
こともあって、会員も参
加者も年々減少している
のが現状である。
まず、大坪会長さんが
挨拶される。年明けにあ
やかた今年がいい年に
なつてほしいという願いを
述べられた後、正月の帰
郷を通して郷里へつる思
いを切々と語られた。

続いて前野本部同窓会
長さんの挨拶。八十周
年、九十周年記念事業等
母校の大まかな発展の経
過、高校の統廃合問題を
話された後、地元の病院
問題や市町村合併が一市
四町で進められているこ
と等、会員の知らない情
報でたいへんありがた
かった。
挨拶の最後は西元校長
先生。母校百三年の歴史
に触れながら現状を報
告。卒業生のほとんどが
自己実現のために進学し
ていること、文武両道を
目指し部活動も活躍して
いること、服装や礼儀が
特に優秀で地域の信頼を
得ていること等たいへん
嬉しい話で母校への思い
を一段とかきたてられた
のである。
議事では恒例の経過報
告、会計報告、役員改正

の審議が滞りなく終了し、待ちに待った懇親会が始まった。

人数は多くなかったが、特別参加の校長先生の配偶者(川辺が大雪に見舞われ、危ないということで同伴)を含めて二十二名が、面識の有無や年齢の違いを越えて話が弾む。

あつという間に時間が過ぎる。時間不足で会次第の自己紹介と余興はできずじまい。

ここで飛び入り。宮本さんが、現在鎌倉市在住の前橋竹之氏(高二卒)著作の『三角兵舎の月』の紹介に思いを込めて熱弁を振るう。さらに、事務局長の長野先生が、

「営業マンの長野です」等ユーモアたっぷりに校歌のCDを宣伝し、神戈陵教育の振興会運用資金の寄付を呼びかける。(数名が即座に応じる)

いよいよフィナーレ。

う。「旧校歌も一番だけ」と歌い始めたが、いつの間にか二番まで歌ってしまふ。気持ちの高まりを感じる。

遠路お出でいただいた三名に、都城幹事長の泊さんからの心温まる記念品(特産の都城牛)の贈呈。そしてその泊さんの声高らかな一本締めで終了。

来年の宮崎市での再会を胸にそれぞれ帰路についたのである。

同窓会当日は、担当幹



川 辺 同 窓 会

加賀 喜次
(昭和56年卒)

蘇った神戈陵魂

平成十五年度川辺高等学校同窓会は、八月九日に川辺町の「ふく美」で百七十人参加のもと盛大に開催されました。

今回は、昭和五十六年卒の男性と平成二年卒の女性が幹事担当で、川辺町、知覧町、鹿児島市、加世田市に在住する十一

人の中心になり、三回の実行委員会を開いて準備が進められました。前年度の担当幹事から引継を受けてから時間的な余裕があまりなかったため、ほとんどが電話で連絡を取り合いましたが、中心の十一人以外にも実行委員会への参加を呼びかけたため、実行委員会がある一面では同窓会というような雰囲気でもありました。

参加者全員総立ちで、応援歌、旧校歌、新校歌の熱唱をするうちに、あ

酒を酌み交わし、思い出話に花が咲き、ちょうどほろ酔い気分になった時、司会(前野聡君)の号令で、担当幹事である昭和五十六年卒の男性は、舞台へ集合・整列。

何が始まるやら。いでもしたるは「オッス！」のかけ声とともに、懐かしの応援団(藤田千尋君)による第七応援歌『春々漫々』でありました。



の懐かしの「神戈陵」と運動会当日の早朝に掲げた「紅白のバックスクリーン」が脳裏に蘇った人が多かったのではないかと思います。

この後、宴はさらに続き、来年度の担当幹事のあいさつで幕を閉じました。では、また来年の同窓会で！

鹿兒島同窓会

木原 彬成
(昭36年卒)

平成十六年度の鹿兒島同窓会ならびに懇親会が七月二十四日(土)にジェイドガーデンパレスで八十六名参加のもとに開催されました。ご来賓として川辺同窓会前野政美会長、高田政雄副会長、母校から西元辰宏校長、大脇友治教頭、前田浩事務長、長野守雄、山口久信、山崎憲志先生方のご参加をいただきました。

亡師・亡友に対する黙

祷を行ない、片平可也鹿兒島同窓会会長のあいさつ、川辺高等学校同窓会前野政美会長のあいさつ、川辺高等学校校長西元辰宏校長のあいさつなどがあり、協議に入りました。議長は片平会長が行ない、松清康則幹事長より、十五年度の会務報告・決算報告等があり、今森實監事より監査報告

があつて、十六・十七年度の役員改選が行なわれ、次の方々が役員として承認されました。

* 平成16年度・17年度役員名

役職名	氏 名	卒業年	役職名	氏 名	卒業年
名誉会長	片平 可也	昭20卒	副 会 長	大迫 晶子	昭28卒
会 長	池田 弘	昭23卒	副 会 長	窪田マリ子	昭29卒
副 会 長	椎原 耕	昭26卒	監 事	田中 政吉	昭20卒
副 会 長	東 洋一	昭28卒	監 事	今森 實	昭22卒
副 会 長	小牧 恭子	昭23卒			

今後とも鹿兒島同窓会発展のために、ご活躍されることを期待致したいと思います。

そして、新会長・旧会長のあいさつがあり、神戈陵教育振興会資金の募金協力のお礼の言葉を高田政雄副会長より述べられて総会は終了し、懇親会へと移りました。

懇親会準備の時間の間、藤原和朗氏による、天吹演奏が行なわれました。藤原氏より天吹の由来の説明があり、鹿兒島にしかない竹笛であること、音階は尺八と同じで、三つの節があり、一番下の節は、キリで穴をあけてあるなどの話をしてくれました。尺八と違った高音の物静かな演奏でありました。

池田弘新会長の開宴のあいさつがあり、昭和十五年卒の楠元薩男さんの力強い乾杯の発声により懇親会が始まりました。そして、昭和三十五年卒の柚木清紀さんが、日本舞踊を披露され、懇親会にはなを添えてくれました。その間、参加者は、

面々の神戈陵時代の思い出に話を弾ませ、旧交を深める姿は自分たちの学生時代に戻っていたようでした。

同級生、先輩、後輩、と入れ混じって酒盃を酌み交わす姿は、鹿児島同窓会一致団結の姿であること、うれしく思いました。

余興の部でも三十二年卒の迫田様をトップにカラオケで多くの方々が自慢ののどを披露してくださって、懇親会も最高に盛り上がりしました。

宴たけなわの中、旧制中学校校歌・新制高校校歌を全員で声高らかに斉唱の後、昭和十八年卒松永正治さんの音頭で万歳三唱を行ない、椎原副会長の閉会のあいさつで懇親会の幕を閉じました。

来賓として出席していただいた、前野同窓会会長、高田同窓会副会長、学校側から西元校長、大脇教頭、前田事務長（昭三十九年卒）、長野先生

（昭四十二年卒）、山口先生（昭四十六年卒）、山崎先生（昭六十一年卒）本当にありがとうございました。

今年は昨年より参加者が減少しましたが、盛会のうちに鹿児島同窓会総会・懇親会を終了できたことを、感謝申し上げます。

最後に母校のますますのご発展を祈念いたします。



第24回

川辺町役場神戈陵会

楠原 万介
(昭和52年卒)

平成十六年度川辺町役場

神戈陵会総会ならびに懇親会を平成十六年六月十日、川辺町万之瀬川添いにあります「ひろせ」において開催いたしました。

我々神戈陵会は、昭和三十七年卒より平成十二年卒の百十一名の同窓生会員で構成されています。

総会は、平成十五年度会長吉永正博（昭和四十四年卒）のあいさつの後、議事に入り、活発な意見が交わされるなか、母校及び母校の行事に対する援助、川辺高等学校同窓会運営への協力、これからの神戈陵会のあり方等、小山修二（昭和五十年卒）会員の議事進行のもと全会一致で承認されました。

引き続き懇親会では、同窓会長の前野政美氏、母校より西元辰宏校長先生を始め多数の先生方の

出席をいただきました。

前野同窓会長、西元校長先生のごあいさつに共通してありました「母校に対する地域住民の関心と理解をもっと高められるよう頑張つて行かなくてはならない」「生徒の夢実現に向かって教職員一丸となって支援する」

等、大変心に残りました。出席者一同楽しく飲み、語らうなか恩師との思い出話に花が咲いている会員もいました。また、長野守雄先生（昭和四十二年卒）手作りの栞をいただきました。本当に有難うございました。

我々川辺町役場神戈陵会は地元で元気に活動しています。平成十六年度は、下蘭隆春（昭和四十五年卒）会長を中心に会員一致団結して活動してまいりますので、よろし

くお願い申し上げます。

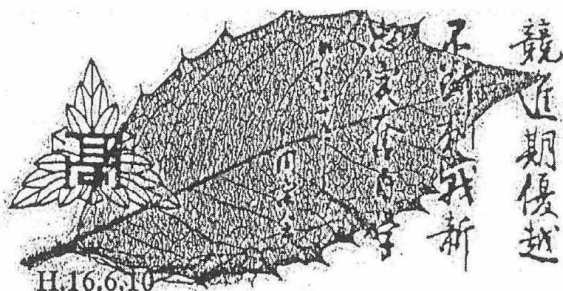
座右の銘

弘毅正心

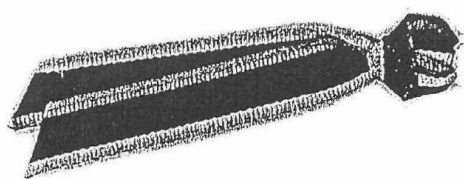
競進期優越

不斷創我新

志を存す



H.16.6.10



平成16年度川辺町役場神戈陵同窓会

川辺町役場神戈陵会
事務局

川辺町平山三、二三四番地
川辺町役場内

電話

○九九三―五六―一一二

会 長

下 蘭 隆春(昭和45年卒)

副会長

芝原 仁(昭和45年卒)

川野たみ子(昭和47年卒)

委 員

50代

有水 秀男(昭和46年卒)

井上 陽子(昭和46年卒)

40代

井上 幸一(昭和53年卒)

下塩入洋子(昭和50年卒)

30代

柞木 浩幸(昭和46年卒)

向江 鈴代(平成3年卒)

20代

山崎 泰裕(平成6年卒)

井料一二美(平成6年卒)

書記会計

楠原 万介(昭和52年卒)

会計監事

上野 利美(昭和52年卒)

馬籠 照子(昭和46年卒)

知覧町役場神戈陵会

松久保正和
(昭和57年卒)

去る平成十六年六月十七

日に知覧町役場職員神戈陵
会が、知覧町「やなせ」に
おいて開催されました。

母校より西元校長先生
と松元先生の二人の出席
をいただきました。

毎年一回開催される神

戈陵会も数十回を数える
に至り、昭和三十四年卒
より平成十二年卒者で役
場職員数の四割以上を占
める六十七名の同窓生が
会員であります。

平成十五年度幹事塗木清
久(昭和六十三年卒)のあ
いさつのあと、出席され
た先生方の紹介があり、西
元校長先生より母校の近況報
告があり後輩の各方面での
活躍に参加者一同満足の表
情でありました。

続いて懇親会に移り、
出席者一同楽しく語らい
ながら会員はもちろん、
出席された先生方との交

友を深めていました。

また、中には昔の担任
の先生の話や学校での思
い出について話が盛りあ
がり二次会、三次会と
行った方もおりました。

ここ数年、役場は採用も
なく新しい会員もいませ

んが、今いる会員で知覧町
役場神戈陵会を盛り上げ
ていき、今後入ってくる後
輩のためにも頑張ってい
きたいと考えています。

平成十六年度については
次の幹事の顔ぶれで会活動
を推進していくことになり
ましたので、何卒宜しくお
願い申し上げます。

事務局

知覧町郡六二〇四番地

知覧町役場内

TEL〇九九三―八三―二五二

幹事

佐多 清文(平成元年卒)

川原 守和(平成元年卒)

上野一二三(平成10年卒)

二八会卒業五十周年

田中 徹朗

平成十五年十

一月十二日、大
阪リーガロイヤ
ルホテルにて、
卒業五十周年記
念の同期会を催
し、七十名が参
加した。

記念撮影後、
辰元雅和君が司
会をつとめた。
先ず亡師亡友に
黙祷、河野良子
さんによる開会
宣言、参加者代
表の鰐坂秀明君
の挨拶、中迎隼
人君の発声で乾
杯し、懇親会に
入った。

二八会は三十
周年に続いて、
二回目の記念誌
を発行し、会場
で配布したが、
岡本守編集長か



ら説明がなされた。

男性だけでも初参加が三名あり、皆様から歓待を受けていた。名前を思い出せず、隣りの人にもこっそり聞いている人もいた。そのうち、全員に一分以内のスピーチが廻って来、それによって話題の種がふえ、座が賑わって来た。

定刻が迫った所で、福永勉君の指揮で校歌合唱、「元気に生き抜いて又お会いしましょう」と

大山保隆君の閉会の辞があった。

同ホテル三十階のスカイライナーが二次会場

で、殆どの方が参加し、積もる談話が交わされた。一次会場でのコンパ

ニオン嬢九名分と、二次会場の費用は鯉坂秀明君の芳志によって支払われており、参加者を代表して厚く御礼を申し上げます。

翌十三日は京都観光で、四十名参加し、金閣寺、竜安寺を訪れ、嵐山では昼食をとり、散策や川下りを楽しんだ。

母校教育振興会の資金不足を耳にし、会場でカンパを募り、その他を加えて二八会より七万円を母校に贈り、協力した。

和卒
昭32年

第4回同窓会

中久保正弘
(昭和32年卒)

平成十五年十月二十二日(木)の午後、フエリーボートより目前に聳える櫻島の勇姿に感嘆し「花の命は短くて苦しきことのみ多かりき」と林美美

子が詠った古里の観光ホテルに全国各地より四十名が参集しました。私達は五年毎に同窓会を開催しており今年は第四回となります。ロビー

での歓談の後、全国的に有名な龍神露天風呂に入り、海底まで澄み渡る錦江湾と秋日差しに映える開聞岳を眺めつつ、友とひさしぶりの再会を改めて喜びあいました。

その後代表幹事村毅さんの開会挨拶に続き、亡師・亡友に黙祷を捧げ、来賓としてご出席いただきました当時国語担当で五組担任の森田先生(七十三歳)と体育担当の平峰先生(七十八歳)より「これからの人生を楽しく過ごすには健康第一」とのお話を伺いました。関東、関西、北九州・広島そして南九州の四ブロックごとに分かれて各自の近況報告を行い、「かくし芸大会」となりました。芸達者の方々が多く四時間弱もの宴会もアツと言う間に終わってしまいました。和室に三々五々別れてからも話は尽きずに、どの部屋からも明るい笑い声が深夜まで

響き渡り、僅か一時間の睡眠しか出来なかった部屋もあったようです。

翌二十三日も日本晴れで、錦江湾に昇る日の出を眺めながら露天風呂を楽しみました。バスにて川辺峠経由、田代にある「道の駅」で川辺牛の特別料理を賞味し、ダイオキシンの除去設備のある川辺ゴミ処理工場を見学しました。勝目から川辺への道すがらバスの上から川辺高校生の33km遠行に遭遇しました。33km遠行は、開校百年の記念行事として発足したもので、明治三十三年創立にちなんで全校生徒が参加して33kmを走破又は歩いて健脚を競います。毎年一人の落伍者もないとの事です。川辺高校では遠行を終えた生徒の皆さんに「こんにちは！」の明るい声で迎

えられ、長野先生(化学担当)の案内で先ず神戈陵に登りました。グラ



ドでは野球部の皆さんが元気に白球を追いかけており、過ぎ去りし高校時代に思いを馳せました。尚学舎を見学し、校史資料展示室では皆さん当時の卒業アルバムに釘付けになり「おかつば髪のムジヨカもムジヨカ オゴジヨ」と「ざんぎり頭のヨカニセ」を食い入るように見つめており誠に印象的でした。

安楽教頭、山口先生、長野先生より川辺高校の現況を伺い、後輩諸氏の頑張りには目を見張るものがあり、誠に頼もしい限りでした。お話の後33km遠行の応援から帰られた西元校長にもお会いできました。

快晴に恵まれ、朝から深夜まで笑い転げ全てが楽しい想い出となる二日間でした。川辺高校の更なる発展を祈りつつ、五年後、七十歳になった時鹿児島で開催される第五回同窓会に全員が元気で参加できることを期待しております。



珊瑚会同窓会

森園 善弘

(第12回卒)

これは我々川辺高校第十二回卒同窓会の名称である。薩摩半島の中心にあり山に囲まれた川辺高校で、海のサンゴとはなんと優雅な名だろう。男子は亀を助けた太郎の様に心やさしく、女子は竜宮城の乙姫様の様に美しい卒業生ばかりである。

名の由来は、昭和三十三年に、

ご卒業したからである。その後、産後の肥立ちも良く大きく成長し平成十五年十一月十五日に第四回目の同窓会を霧島で開催しました。あくまでも、十五年と十五日にこだわるどころがさんご(3×5=15)会のポリシーである。出席者は五十三名で遠くはロスアンゼルスからも参加した。

拝、川辺ダム見学など文化教養を高めた。珊瑚会の特徴は毎回立派な同窓会誌(日本画の関先生による神戈陵表紙付き三十ページ)を発行することである。会員の近況、写真、随筆など格調高い内容で同窓会当日都合悪く出席できない会員にも送付して連帯感をふかめている。

当日は、川辺おごじよ連による踊りやマジックショウ等高校時代には隠していた才能を発揮する者などで遅くまで賑わった。

同窓会後は土産の玉手箱の煙を被った様に急に老け込んだけど、皆還暦をむかえ、今後はお互いのきずなをますます大切にして自分の健康と母校の発展に努力しようとした。三年後の再会を誓った。

ただ飲み騒ぐだけでなく、翌日はバス貸し切りで修学旅行を企画して、霧島の紅葉鑑賞、えびの高原散策、霧島神宮の参



神ヶ寮全国大会

平成15年11月5日(水)

○ 元寮生の誰かが上京したとか、或いは帰郷

したとかの折を見て「ささやかな神ヶ寮

「会」がこれまで幾度か開かれたことは事実だが、全国的な大会とまでは至らなかった。若い時は仕事にかまけてそんな余裕も時間もなかったのも理由の一つかと思う。ところが、会員の殆どが還暦を過ぎ定年を迎えた七、八年前、熱海辺りで「全国大会」をやるうじやないかとの声は上がったものの立ち消えとなった。今回、前園和男氏（十八年）の働きかけで動き出し、日の目を見ることになった。足腰がしつかりしている内にやらねばと言う、多少の焦りもあつてのことか。いずれにしても、最後の機会が訪れたことは御同慶の至りと言う他はない。会場設営等々、奔走下さった地元の幹事の諸氏には感謝を申し上げたい。

○ 「大会資料」の表題、

（神ヶ寮）の名称には異論のある方もいるのではと思う。会員によつては「神戈寮」と呼称する方もおられる。学校の資料には「寄宿舎」とある。正式名は「神戈陵尚学舎」との説もあるようだが定かではない。

○ 「大会資料」などと

銘打つ割には内容に乏しく、ご覧の如く、母校百周年記念式典の折受けた資料を抜粋し、勝手に利用させて貰っているに過ぎない。その中で、校歌を掲載する上でどうしても応援歌にも執着した。幸い、森昭雄氏（十五年）から歌詞の提供を受け、その思いが叶った。「神戈陵頭秋酬けて……」時には口ずさみ、往時を懐かしむ。会員の名簿記載範囲は、意見を集約して十五年入学組以降とした。神ヶ寮下で一時的

も寝食を共にした方は網羅したつもりである。しかしながら、未曾有の変動の時代、名簿漏れしている方もあるやに思える。また住所不明の方も多く見られる。この度の名簿を再び必要とする機会は来ないかも知れないが、出来る限り正確なものとし、記録として残したい。お気付きの方は是非ご教示願いたい。

○ ファイルの枚数を節約する意味から字体を小さくしてしまった。

折角、皆さんから寄せられた熱いメッセージを読みづらくしてしまったこと、平にご容赦願いたい。

○ 「思い出の写真」として、お三方から貴重な写真の提供を受けた。しかしながら俄写真屋の複写技術では、原画とは似ても似つかぬ色調に仕上がってしまった。お許しを乞う



神ヶ寮全国大会 平成15年11月5日（於：指宿海上ホテル）

次第である。また、周りをトリミングして皆さんの童顔を多少は大きく写し出すことも出来たのだが、撮影場所も思い出の一つ、有りの俣の複写とした。

○「寮生当時の時代検証」という題で、昭和十五年から二十五年三月までの貴重な年表を掲載した（十九年入学組は卒業が二十五年三月なので打ち切られている）。当時の学校行事、世相等々、綿密で興味深い年表となっている。今一度じっくり読んで頂ければ、寮生当時の忘れかけていた思い出の二つや三つ蘇って来るものと確信している。

（大会資料後記より）

平成15年涼月、

神ヶ寮会事務局）

募金の報告とお礼

（財）神戈陵教育振興会

同窓会の皆様におかれましては、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。平素から、教育振興会活動に御理解・御支援

を賜りまして感謝申し上げます。

さて、昨年度は、神戈陵教育振興会の推進に係る運用資金への御支援をお願いいたしまして、誠にありがとうございました。多くの皆様から多大の御寄付をいただきまして、誠にありがとうございました。

りがとうございました。左記に募金件数と総額の御報告を致します。本年度も引き続きお願いしておりますので、御協力をお願い申し上げます。併せて、十

五年度実施事業及び十六年度事業計画を報告し、略儀ながら衷心より感謝の意を表します。

なお、学校当局には神戈陵教育振興会事業の趣旨を理解され、よく活用されて、学校の更なる教育振興が図られることを強くお願い申し上げます。

同窓会員の皆様におかれましては、今まで以上に母校に目を向けられまして、学校の発展を見守り、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。皆様の益々の御健勝と御発展をお祈り申し上げます。

（一）募金件数・総額

・ 百五十件

・ 二百五十六万八千円

（目標額 三百万円）

（二）十五年度実施事業

◇育英奨学事業

・ 十一件（三十九万円）

（三）十六年度事業計画

◇育英奨学事業

① 難関大学を目指し合格できる高い学力を持つ生徒の更なる努力を奨励する。

・ 十件（三十八万円）

② 学力の著しい伸長の見られる生徒の努力を讃え更なる努力を奨励する。

・ 二件（六万円）

◇学術及びスポーツ振興のための助成

（部活動を通して、九州大会、全国大会で入賞した個人及び団体に振興助成金を給付し、榮譽を顕彰する。）

・ 三十六万円

（四）寄付金の振込先

・ 口座名称

財団法人

神戈陵教育振興会

・ 郵便振替口座番号

017901411
10527

理事長（菊野光郎）

平成十六年度「同窓会育英奨学生」決定の報告

川辺高校同窓会会長

前野 政美

川辺高校同窓会は、母校が社会に有為な人材の育成を果たしつつ、輝かしい発展を続けていくことを念願し、様々な支援を行っている。平成十六年度からは、地域のきわめて優れた資質を有する生徒の、母校への入学が一段と促進されることを願い、育英奨学金制度を発足した。

具体的には、優れた資質・能力と高い志をもつて川辺高校に入学した一年生を激励・応援するために、月額一万円の育英奨学金を給付し、川辺高等学校の英才育成と人材確保に寄与することとする。

第一回同窓会育英奨学生は左記の通り。

・ 古市 梨沙（川辺中出身）
・ 櫛下町由樹（知覧中出身）

川 辺 高 校 同 窓 会
平成15年度 決算書

収入の部

(H15. 8. 1 ~ H16. 7. 31)

費 目	予算額	補正額	予算現額	決算額	増 減	備 考
入 会 金	200,000		200,000	193,000	△ 7,000	1,000×193 新入生
会 費	352,000		352,000	352,000		2,000×176 卒業生
総会収入	400,000		400,000	529,000	129,000	会費529,000
繰越金	211,606		211,606	211,606		
受入利息	994	- 424	570	570		
雑 収 入	820,000		820,000	794,430	△ 25,570	定期取崩、CD、記念誌 他
計	1,984,600	- 424	1,984,176	2,080,606	96,430	

支出の部

費 目	予算額	補正額	予算現額	決算額	残 額	備 考
総 会 費	400,000	129,000	529,000	527,508	1,492	総会
需用費	100,000		100,000	94,080	5,920	同窓会報
通信費	10,000		10,000	13,900	△ 3,900	はがき、切手代
慶弔費	100,000		100,000	44,000	56,000	転退職員へ 香典 花輪
旅 費	600,000		600,000	524,315	75,685	東京・東海・関西・福岡 他
負担金	260,000		260,000	240,000	20,000	各地区同窓会へ
高振費	420,000		420,000	259,202	160,798	講師謝礼、連絡会、奨学金
雑 費	90,000		90,000	104,523	△ 14,523	焼酎、さつま揚げ
予備費	4,600		4,600	31,500	△ 26,900	石踊氏個展花輪代
合 計	1,984,600	129,000	2,113,600	1,839,028	274,572	

収入決算額 - 支出決算額 = 次年度繰り越し

2,080,606 - 1,839,028 = 241,578円

特別基金

平成16年 7 月31日現在合計 8,580,011円

内訳

980,000

田部田郵便局

利率

0.10 13.2.16預入

4,098,608

鹿児島銀行

0.12 12.8.4

3,501,403

鹿児島相互信用

0.15 12.8.4

平成16年度 予算書 (案)

収入の部

(H16. 8. 1 ~ 17. 7. 31)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
入 会 金	200,000	200,000	0	新入生 1,000×200
会 費	384,000	352,000	32,000	卒業生 2,000×192
繰越金	241,578	211,606	29,972	
利 息	522	994	△ 472	
雑 収 入	880,000	820,000	60,000	定期取崩 85万円、寄付3万円 他
総会収入	400,000	400,000		
計	2,106,100	1,984,600	121,500	

支出の部

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
需用費	100,000	100,000	0	同窓会報
通信費	10,000	10,000	0	
慶弔費	100,000	100,000	0	転退職員記念品代 他
旅 費	600,000	600,000	0	東京 東海 関西 福岡 宮崎 熊本 他
負担金	270,000	260,000	10,000	各地区同窓会
高校振興費	520,000	420,000	100,000	講演謝礼10万、中高連絡会10万、 奨学金32万
雑 費	90,000	90,000	0	
予備費	16,100	4,600	11,500	
総 会 費	400,000	400,000	0	
計	2,106,100	1,984,600	121,500	

各地区同窓会連絡先

事務局 川辺高等学校

TEL 0993-56-1151

〒897-0221 川辺郡川辺町田部田4150

FAX 0993-56-1152

川 同 窓 会	辺 会	会 長	前 野 政 美 高	7
		副 会 長	東 東 真 高	5
		副 会 長	中 村 祐 高	13
		副 会 長	中 田 政 高	14
		副 会 長	田 中 紘 高	15
		副 会 長	田 中 幸 高	15
		副 会 長	深 川 磯 高	15
		副 会 長	森 田 隆 高	16
		副 会 長	下 田 春 高	20
		副 会 長	高 田 政 高	22
		副 会 長	有 蘭 博 高	25
		副 会 長	菊 板 孝 高	28
		副 会 長	板 野 光 旧中	37
東 同 窓 会	京 会	会 長	中 釜 作 治 高	1
		副 会 長	足 立 美 子 高	10
		副 会 長	辰 元 房 子 高	9
		副 会 長	鯨 坂 悟 高	9
		副 会 長	峯 元 政 高	23
		副 会 長	川 平 悦 郎 高	24
		副 会 長	飯 野 布 志 夫 高	3
		副 会 長	二 反 田 統 高	7
		副 会 長	日 置 宏 高	10
		副 会 長	吉 利 用 邦 高	18
		副 会 長	江 田 和 子 高	17
		副 会 長	池 田 寛 高	6
		副 会 長	梅 橋 弘 高	6
関 同 窓 会	西 会	会 長	河 津 美 子 高	15
		副 会 長	岩 屋 口 大 高	16
		副 会 長	茶 蘭 義 文 高	21
		副 会 長	南 谷 知 成 高	13
		副 会 長	堀 内 勉 高	19
		副 会 長	上 野 修 高	20
		副 会 長	南 谷 洋 一 高	26
		副 会 長	野 中 實 男 旧中	39
		副 会 長	今 市 治 雄 旧中	38
		副 会 長	宮 内 清 文 旧中	42
		副 会 長	酒 梅 光 郎 高	2
		副 会 長	丸 橋 豊 藏 高	15
		副 会 長	野 丸 真 一 高	34
宮 同 窓 会	崎 会	会 長	大 坪 學 高	3
		副 会 長	田 代 和 高	3
		副 会 長	黒 木 和 高	4
		副 会 長	片 平 可 也 旧中	41
		副 会 長	池 田 弘 旧中	44
		副 会 長	小 牧 恭 子 高	1
		副 会 長	椎 原 耕 高	3
		副 会 長	出 来 洋 一 高	4
		副 会 長	東 洋 晶 一 高	5
		副 会 長	大 迫 子 高	5
		副 会 長	窪 田 マリ 子 高	6
		副 会 長	松 清 康 旧中	44
		副 会 長	木 原 彬 高	13
鹿 児 島 同 窓 会	島 会	会 長	今 森 政 實 旧中	41
		副 会 長	有 馬 賢 一 旧中	31
		副 会 長	原 崎 教 夫 旧中	31
		副 会 長	上 大 田 陽 一 高	2
		副 会 長	田 中 紘 一 旧中	44
		副 会 長	市 坪 政 昭 高	15
		副 会 長	戸 床 安 孝 高	18
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
加 世 田 地 区 同 窓 会	地 区 同 窓 会	会 長	有 馬 賢 一 旧中	31
		副 会 長	原 崎 教 夫 旧中	31
		副 会 長	上 大 田 陽 一 高	2
		副 会 長	田 中 紘 一 旧中	44
		副 会 長	市 坪 政 昭 高	15
		副 会 長	戸 床 安 孝 高	18
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
知 覧 地 区 同 窓 会	地 区 同 窓 会	会 長	有 馬 賢 一 旧中	31
		副 会 長	原 崎 教 夫 旧中	31
		副 会 長	上 大 田 陽 一 高	2
		副 会 長	田 中 紘 一 旧中	44
		副 会 長	市 坪 政 昭 高	15
		副 会 長	戸 床 安 孝 高	18
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
枕 崎 地 区 同 窓 会	地 区 同 窓 会	会 長	有 馬 賢 一 旧中	31
		副 会 長	原 崎 教 夫 旧中	31
		副 会 長	上 大 田 陽 一 高	2
		副 会 長	田 中 紘 一 旧中	44
		副 会 長	市 坪 政 昭 高	15
		副 会 長	戸 床 安 孝 高	18
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10
		代 表	戸 床 安 孝 高	10

結成予定

鹿屋地区同窓会・川内地区同窓会・指宿地区同窓会・加治木地区同窓会